

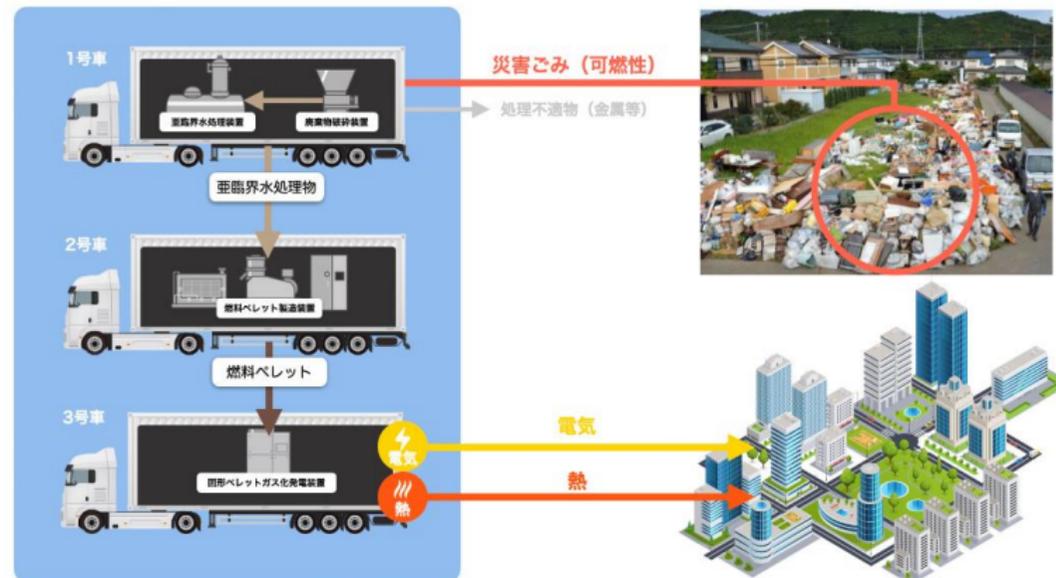
事業概要	国内損害保険事業
部署	ビジネスクリエーション部
所在地	〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル
連絡先	(電話番号)03-3349-9928 (E-mail)10_sj_busi_e@sompo-japan.co.jp
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	<p>当社は、SDGsなどの国際動向をふまえ、「安心・安全・健康」に資する最高品質のサービスの提供を通じて、社会的課題の解決に取り組むことで、サステナブルな社会の実現を目指します。また、当社のグループ持株会社であるSOMPOホールディングス株式会社ではグループCSRビジョンに基づき以下の5つの重点課題を定め、SDGs達成に向けて様々な取り組みを実施しています。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 防災・減災への取り組み</li><li>2. 健康・福祉への貢献</li><li>3. 地球環境問題への対応</li><li>4. よりよいコミュニティ・社会づくり</li><li>5. ダイバーシティの推進・啓発</li></ol>

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション	<table border="1"><tr><td data-bbox="445 215 562 263">分野</td><td data-bbox="571 215 2132 263">脱炭素／農林水産業・地場産品／サーキュラーエコノミー／防災</td></tr><tr><td colspan="2" data-bbox="445 269 2132 841"><ul style="list-style-type: none"><li>• 当社は、「安心・安全・健康のテーマパーク」の実現に向け、優れた研究開発機関やベンチャー企業などとの提携・投資・人材交流を通して、社会課題の解決につながるような事業創造に取り組んでいます。</li><li>• 事業創造の取り組みにおいて当社では亜臨界水処理技術を活用して有機廃棄物からエネルギーを生成する事業により、お客さまに安心安全な自立分散型エネルギーをお届けするベンチャー企業、サステイナブルエネルギー開発株式会社(代表取締役CEO:光山 昌浩、本社:宮城県仙台市、以下「サステイナブルエネルギー開発」と、エネルギー分野の社会課題解決に資する技術・サービスを提供するために業務連携をしています。</li><li>• サステイナブルエネルギー開発は、亜臨界水処理技術をベースに、有機廃棄物を原料にしたエネルギー生成装置の開発に取り組んでおり、同社製品は据置型と車載型があり、「プラスチックを含む有機廃棄物の分別が不要」「廉価な設置維持コスト」「コンパクトなサイズ」「CO2排出量の削減」「滅菌」を特長としています。</li><li>• また、生成物(ブラックペレットまたはメタンガス)は再生可能エネルギーとして利用可能です。</li><li>• 同社では自治体の廃棄物処理施設、自立分散型電源としてオフィスビルや商業施設への内部設置や併設、スマートシティへの導入を検討しています。また、当該装置を活用して海ごみのエネルギー化、感染性医療廃棄物のエネルギー化等を検討するなど、幅広い業界での再生エネルギーの活用を目指しています。</li></ul></td></tr><tr><td data-bbox="445 847 562 895">URL</td><td data-bbox="571 847 2132 895"><a href="http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2020/20200611_1.pdf">http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2020/20200611_1.pdf</a></td></tr></table>	分野	脱炭素／農林水産業・地場産品／サーキュラーエコノミー／防災	<ul style="list-style-type: none"><li>• 当社は、「安心・安全・健康のテーマパーク」の実現に向け、優れた研究開発機関やベンチャー企業などとの提携・投資・人材交流を通して、社会課題の解決につながるような事業創造に取り組んでいます。</li><li>• 事業創造の取り組みにおいて当社では亜臨界水処理技術を活用して有機廃棄物からエネルギーを生成する事業により、お客さまに安心安全な自立分散型エネルギーをお届けするベンチャー企業、サステイナブルエネルギー開発株式会社(代表取締役CEO:光山 昌浩、本社:宮城県仙台市、以下「サステイナブルエネルギー開発」と、エネルギー分野の社会課題解決に資する技術・サービスを提供するために業務連携をしています。</li><li>• サステイナブルエネルギー開発は、亜臨界水処理技術をベースに、有機廃棄物を原料にしたエネルギー生成装置の開発に取り組んでおり、同社製品は据置型と車載型があり、「プラスチックを含む有機廃棄物の分別が不要」「廉価な設置維持コスト」「コンパクトなサイズ」「CO2排出量の削減」「滅菌」を特長としています。</li><li>• また、生成物(ブラックペレットまたはメタンガス)は再生可能エネルギーとして利用可能です。</li><li>• 同社では自治体の廃棄物処理施設、自立分散型電源としてオフィスビルや商業施設への内部設置や併設、スマートシティへの導入を検討しています。また、当該装置を活用して海ごみのエネルギー化、感染性医療廃棄物のエネルギー化等を検討するなど、幅広い業界での再生エネルギーの活用を目指しています。</li></ul>		URL	<a href="http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2020/20200611_1.pdf">http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2020/20200611_1.pdf</a>
分野	脱炭素／農林水産業・地場産品／サーキュラーエコノミー／防災						
<ul style="list-style-type: none"><li>• 当社は、「安心・安全・健康のテーマパーク」の実現に向け、優れた研究開発機関やベンチャー企業などとの提携・投資・人材交流を通して、社会課題の解決につながるような事業創造に取り組んでいます。</li><li>• 事業創造の取り組みにおいて当社では亜臨界水処理技術を活用して有機廃棄物からエネルギーを生成する事業により、お客さまに安心安全な自立分散型エネルギーをお届けするベンチャー企業、サステイナブルエネルギー開発株式会社(代表取締役CEO:光山 昌浩、本社:宮城県仙台市、以下「サステイナブルエネルギー開発」と、エネルギー分野の社会課題解決に資する技術・サービスを提供するために業務連携をしています。</li><li>• サステイナブルエネルギー開発は、亜臨界水処理技術をベースに、有機廃棄物を原料にしたエネルギー生成装置の開発に取り組んでおり、同社製品は据置型と車載型があり、「プラスチックを含む有機廃棄物の分別が不要」「廉価な設置維持コスト」「コンパクトなサイズ」「CO2排出量の削減」「滅菌」を特長としています。</li><li>• また、生成物(ブラックペレットまたはメタンガス)は再生可能エネルギーとして利用可能です。</li><li>• 同社では自治体の廃棄物処理施設、自立分散型電源としてオフィスビルや商業施設への内部設置や併設、スマートシティへの導入を検討しています。また、当該装置を活用して海ごみのエネルギー化、感染性医療廃棄物のエネルギー化等を検討するなど、幅広い業界での再生エネルギーの活用を目指しています。</li></ul>							
URL	<a href="http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2020/20200611_1.pdf">http://www.sjnk.co.jp/~media/SJNK/files/news/2020/20200611_1.pdf</a>						
上記ソリューションを提供できる地域について	全国						

## 自者の特徴

- 地域での再生エネルギーシステム導入と廃棄物処理システムをコンパクトに実現する。「亜臨界水処理技術」でプラスチックを含む可燃ごみを分別せずに、以下を実現。
  - ① 安定したメタンガス生成を行う技術
  - ② 投入原料の組成の影響を受けずに常に一定品質で石炭と同等のエネルギー密度を有し、塩素などの有害物質も基準値以下の高機能固形燃料を生成
- 地域において、再生可能エネルギーシステム導入と廃棄物処理システムを実現することで、以下の効果が期待できる。
  - ① 気候変動適応法対応
  - ② 大規模・集中型のインフラから小規模・自立分散型の社会インフラへのシフト:「小規模」「移動も可能」なことから、将来の人口動態に合わせた柔軟なインフラ整備が可能。
  - ③ 災害に強いエネルギー源の確保: 地域で発生したゴミを安心安全にエネルギー転換、災害時も利用できる電源確保が可能。
- コンパクトなサイズ、車載移動も可能であり、自立分散型の廃棄物エネルギー生成システムとしての活用や、複数台を組み合わせることで廃棄物焼却施設の代替とすることも可能。

＜車載型装置の利用イメージ図＞

SDGs経営に向けた自  
者の課題や悩み

—